2015年(平成27年)1月22日(木)
毎日新聞

電子絵本 親子で触れて

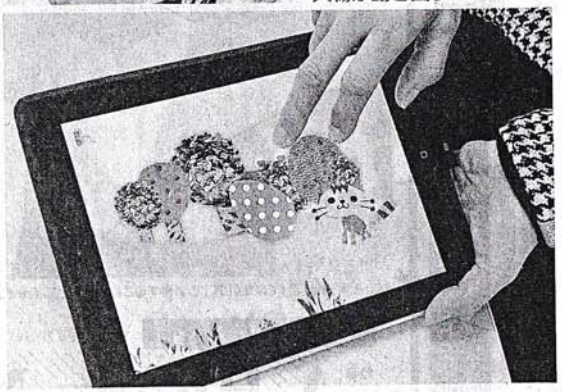
書籍の電子化が進む中、タブレット端末などの電子媒体を使った絵本も少しずつ広まっている。持ち運びに便利で、使い方次第では読み書きの学習などに効果を発揮するという研究結果もあるが、「紙の絵本の代わりにはならない」という意見も根強い。デジタル時代の絵本との付き合い方を考えた。

●仕掛けをたくさん

明るい効果音とともに、タブレット端末「iPad(アイパッド)」にたまごの絵が現れた。先月に東京都内で開かれた電子絵本のワークショップ。電子絵本の制作販売やイベント企画を手がける会社「デジタルえほん」(東京都港区)やNPOなどの共催で、4~8歳の子どもと親8組が参加した。

「このたまごを触ったら、どうなると思う?」。女子美術大芸術学部の季里(きり)教授(メディア表現領域)が画面を見せて尋ねると、集まった子どもたちから「割れる!」と声が上がった。「じゃあ、触ってみよう」。季里教授が画面に指で触れると、たまごが転がりだす。子どもたちは興味津々で画面を見つめていた。

使用した絵本は季里教授のオリジナル作品で、端末を触ったり傾けたりすることで登場人物が動いたり、バラバラだった絵が完成したりする。季里教授は「デジタルの絵本は、子どもたちをわくわくさせる仕掛けをたくさん仕込める。子どもにただ端末を与えるのではなく、ワークショップを通じて、親が子どもと一緒に楽しむ方法を伝えたい」と話す。



上「iPad」を使った電子絵本の読み聞かせを聞く子どもたち=東京都渋谷区で 下電子絵本の一場面。画面に触ると、登場人物が動き出す

●「脳が活性」結果も

ITメディア関連のシンクタンク「インプレス総合研究所」によると、13年度の電子書籍市場規模は、電子雑誌を合わせて初めて1000億円を超えた。

最近は、電子絵本の優位性を示す研究結果も発表されている。早稲田大理工学術院の河合隆史教授(人間工学)らの研究チームは11年、絵本出版や遊具販売などを手がける「フレーベル館」と共同で、4歳児の母子54組を対象に電子絵本の読み聞かせの研究を実施した。同じ絵本を①紙媒体で、母親が読む②電子媒体で、母親が読む③電子媒体で、読み聞かせのプロの保育アドバイザーが読んだ声の録音を聞かせる――の3種類で、子どもの脳の血流や心拍数を計測して比較した。すると、③のプロの読み聞かせが、脳血流などの活性化への反応としては最も顕著だったという。抑揚の付け方など、読み聞かせの上手な音声に反応したと考えられ、河合教授は「電子ならではの特性を生かし、教育効果を高められる可能性がある」と話す。

また、京都大霊長類研究所の正高信男教授(心理学)らの研究チームも14年5月、同じ内容の絵本を紙と電子で読み聞かせた場合、読み上げた文字を赤く表示するハイライト機能をつけた電子絵本のほうが、子どもが覚える文字数が増えたとする研究結果を発表した。正高教授は「今は共働き家庭も増え、遅くまで仕事する親も多い。くたくたになって仕事から帰宅し、自分で読んであげる元気はないけれど子どもに本を読ませたいと思う時くらい、電子絵本を使ってもいいのでは。電子絵本が紙より優れていると言うつもりはないが、道具は中立。あとは使い方次第」と話す。

●「生身の関係大事」

一方で、電子絵本に否定的な意見も根強い。絵本を使った子育てを推奨するNPO法人「絵本で子育て」センターの森ゆり子理事長(62)は「書籍の電子化がどれほど進んでも、紙の絵本の読み聞かせの代わりにはならない」と話す。

「子どもに肉声や息遣いを届けることで、絵本を読むお母さんやお父さんが感じている喜びや悲しみ、怒りを共有できる。文字を覚えるのが少しくらい早くなっても、そうした生身の人と人との関係がなければ、子どもの成長にどこかいびつなものが出てくるのではないか」

また、絵がアニメーションのように動くため、子どもたちが自由に想像力を働かせず、刺激の強い媒体に慣れ、受動的になってしまうことも危惧している。

●上手に使い分け

こうした懸念に対し、季里教授は「電子絵本も紙の絵本も、大人が積極的に子どもに関わることが大切。それぞれの特性を知り上手に使い分ければ、子どもたちの可能性を伸ばせるのでは」と話す。ワークショップでは、工作や紙の絵本の読み聞かせも取り入れている。河合教授も「昼間と就寝前の使い分けや、サイズ、持ち運びの便利さなどの特性を生かし、紙と電子がうまく共存する方法があるのでは」と話す。

その一方で、電子絵本の普及が子どもの視覚機能や情緒面にどのような影響があるかを長期的に検証する必要性も指摘する。「デジタル化によって何かが新しく付け加えられ、何かが失われている可能性もある。トレンドに流されず、子どもにとって何が大切かという視点から、電子絵本のあり方が議論されるべきだ」と話した。

【塩田彩、写真も】

●立体映像も登場

電子絵本は、主にタブレットやスマートフォンを用いて読む子ども向け書籍。絵本が1ページずつ画面に表示され、画面に触れることで次のページに移動するような作品から、ストーリー性よりも画面をタッチしたり端末自体を動かしたりすることで絵が動く「仕掛け絵本」のような作品までさまざま。内容も「ももたろう」などの有名な物語からオリジナルストーリーまで幅広く出版されており、読み聞かせ音声が録音されているものもある。購入する場合は、アプリと同様、ウェブ上でダウンロードする。価格は100~500円台が中心で無料の作品も多い。また、絵本などの上にスマートフォンやタブレットをかざすと、登場人物が立体的に浮かび上がり、動き回るような映像を楽しめる「AR(拡張現実)絵本」も登場した。大手出版社より電子コンテンツを扱う会社や個人による制作・販売が多い。

MAINICHI
毎日新聞
1月22日(木)
2015年(平成27年)
発行所:大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社